

都市再生整備計画(第2回変更)

すかがわえきにし
須賀川駅西 地区

ふくしま すかがわ
福島県 須賀川市

令和6年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	フクシマケン 福島県	市町村名	スカガワ シ 須賀川市	地区名	スカガワエキニシ チク 須賀川駅西 地区	面積	30.0	ha
-------	---------------	------	----------------	-----	-------------------------	----	------	----

計画期間	令和 元	年度 ~	令和	5	年度	交付期間	令和 元	年度 ~	令和	5	年度
------	------	------	----	---	----	------	------	------	----	---	----

目標

- 大目標:「人が集い、歴史と共存するにぎわいと魅力ある駅前空間の創出」
- 目標 地域の資源を活用した交流の推進と魅力の発信
- 目標 地域住民が生き生きと活動し、次世代に継承できる持続可能なまちの創造
- 目標 安全安心で快適に生活できる住環境の整備

目録

令和3年4月

都市全体の再編方針

- 本市では、2009(平成21)年10月に「須賀川市都市計画マスタープラン」を策定し、新たに生じた施策や計画等に対応するため、必要な見直しを行い、企業用地の確保や安全・安心で快適な住環境など将来を見据えた合理的で調和のとれた土地利用に取り組んできた。
- 現在、本市においても、人口減少社会の到来や少子高齢化が深刻で、中心市街地は空洞化が進んでおり、行政サービスや病院、商業施設、公共交通などの日常的に必要なサービスの提供が困難になりかねない状況である。
- 本市は都市計画の中で、健康で快適な生活環境を実現することや財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが課題となっており、これらを解決するために、コンパクトなまちづくりが求められている。
- 本市においても、2019(令和元年)6月に「須賀川市立地適正化計画」を作成し、須賀川市の市街化区域を対象として目指すべき姿を具体的に検討し、持続可能な都市構造への転換を図るとともに、震災復興や中心市街地活性化、公共施設再編と合わせた集落化・複合化・多機能化等の各種取組との整合を図り、居住機能や都市機能の誘導を効率的に進めていく計画である。
- また、令和元年度台風19号では、本市の都市機能誘導区域においても甚大な被害が発生しており、今後も頻発・激甚化する自然災害に対応するため、防災・減災対策を講じることにより、安全安心な住環境整備を促進する。

まちづくりの経緯及び現況

- 須賀川市は、福島県中通り地域に位置しており、鎌倉時代以降は城下町として、天正年間以降は奥州街道屈指の宿場町として、阿武隈川や釈迦堂川と共に発展してきた。現在においても市の中心を国道4号が縦断し、東北縦貫自動車道須賀川インターチェンジを有するなど自動車交通の利便性に加え、JR東北本線須賀川駅、東には福島空港を要するなど非常に交通利便性に恵まれた環境にある。
- 国道4号とJR東北本線によって市街地が東西に分断されており、東側には宿場町の時代から栄えてきた旧市街地として、行政機能や商業店舗などまちの機能がコンパクトに集約されており、西側には河川改修や区画整理事業による新興市街地として広域交流施設の文化センター、アリーナ、温泉施設、都市公園などが配置されている。
- 本計画区域である「須賀川駅西地区」を含む須賀川駅周辺は、奈良・平安時代に石背国として発展し、その栄華を後世に伝える国指定史跡「上人壇麁寺跡」があり、今後の史跡公園化を検討している。
- 駅東地区は、古くから商業店舗が立ち並び、かつてはヒトやモノが行き来する駅前のにぎやかな街を形成していたが、モータリゼーションの進展により次第に郊外の大型商業施設に人が流れてしまう状況となっている。
- 駅東地区において、良質な住宅地の創出を目的に昭和58年から平成28年まで土地区画整理事業を実施し、人口の集約化を図るなど一定の効果を発揮している。
- JR須賀川駅に併設する市のコミュニティ施設内に、本市観光の情報発信を目的として観光案内所を設置している。また、市民や駅利用者の自由な交流や活動を促進するためにコミュニティラウンジを配置している。
- 須賀川駅西地区は、これまで地区の整備計画がなかったことから、無秩序な民間開発による住宅の造成が進行している。
- 地域の自治活動を行う場合において、駅東地区にはそのスペースがないことから、地域住民及びまちづくり団体から駅西地区の利活用を求められている。
- JR須賀川駅は、出入り口が東側のみであるため、既存の駅前広場及び周辺道路は、路線バスやタクシー、駅利用者の送迎車両により道路機能が停止状態となり、車両の接触事故が頻繁に発生している。また、通勤通学のピークの時間帯には交通が阻害され、公共交通がマヒすることなどで公共交通利用者の利便性低下や利用者の減少を招く要因の一つとなっている。

課題

- 地区の歴史的シンボルである国指定史跡「上人壇麁寺跡」へアクセスするための幹線道路が整備されていないこと、また、公共交通機関を利用したの来訪が不便であることから、その魅力を十分に活用できていない。
- 従前の使用目的のために配置されたコミュニティ施設の一部をそのまま観光案内所として使用しているため、配置場所が出入り口から離れているなどの構造的な制約から、効果的なPR活動を図れていない。
- 同施設内に配置しているコミュニティラウンジは、現状としては主に鉄道利用者の待合スペースとしてしか利用されておらず、当初の目的が達成されていない状況である。
- 駅西地区は、ヒトと車の通行が分離できていない狭小で危険な道路が多く、その結果として飲食店や商店などの商業店舗の立地が少ない地区となっている。
- 須賀川駅前地区の自治会組織は、JR東北本線の軌道敷を境に東西に分断されていることから、地域交流の希薄化が課題となっている。
- 駅西地区には、駅東地区の交通混雑を緩和する駅前広場が整備されていないほか、地域住民や駅利用者が安全安心及び快適に生活できる道路や街区公園などのインフラ環境が整備されていない。
- また、本市の市街地については、一級河川阿武隈川や釈迦堂川の改修と共に形成され共に発展してきたが、近年は異常気象により、河川の越水や内水氾濫等が多数発生しており、早期の防災・減災対策が求められている。

将来ビジョン(中長期)

- 須賀川市第8次総合計画において、地区の歴史的シンボルである国指定史跡の上人壇麁寺跡を史跡公園として整備し、地域の魅力向上と市内外住民の歴史学習や憩いの場として活用し、交流人口の増加を図ることを検討している。
- 次世代に引き継がれるまちづくりを促進するため、駅を利用する高校生や本市と包括的な連携協定を締結する福島大学、その他まちづくり会社が市と連携し、魅力的な都市の創造に関して検討する仕組みづくりを構築する。
- 東西連絡自由通路及び駅西広場の整備による交通結節点の強化を図ることにより、民間投資による魅力的な商業店舗の立地、宅地造成による人口密度の上昇、地域活動の活発化による交流人口の増加とにぎわい創出を図り、人が集う駅西地区を創造する。
- 今後も頻発・激甚化する自然災害に対応するため、関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった防災・減災対策を講じることにより、安全安心な住環境整備を促進する。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

- 本市では、宅地造成したエリアを中心とした既存の市街地は非常にコンパクトに形成されており、集約できる区域が少なく、まちづくりが国道4号や東北本線を境に、東側の中心地と西側の新興市街地に分けて展開されており、それぞれの特色を生かした計画を実施する。
- 現在まで、本市が行ってきた様々な施策や事業で、市街地内の都市施設は充足していることから、今後は、現在の都市施設のストックを有効に利用するため、東西の2地区で施設の互換性や利活用が促進される計画を実施する。
- コンパクト化(人口密度の維持や生活利便施設の配置等)と相まって、市が良好な住環境を整備し、人工密度が維持される東西の2地区や交通結節点(須賀川駅等)、交流拠点(市役所、市民交流センター等)を効率かつ効果的に結ぶ公共交通ネットワークを形成する。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

- 本地区は、駅周辺地区として「都市機能誘導区域」に位置付けられており、公共交通が便利で都市機能を備えた地区を目標としている。
- 須賀川駅は、バスや鉄道などの結節点であり、交通利便性に優れた地区であり、市外からの来訪者を迎える市の玄関口として、必要な施設整備を行い、駅周辺は効率の良い交通環境を推進する。
- 鉄道で分断された東西地区をつなぐ自由連絡通路や国指定史跡の上人壇廃寺跡と連携して、駅西地区の賑わいや魅力を創出する。
- 区画整理で整備された駅東地区に加え、駅西地区の生活利便性の向上を図る整備を行うことで定住を促し、徒歩で生活可能な区域を整備する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内人口	人	計画地区内の定住人口	地区内人口の増加を、地域の魅力向上及び住環境整備の成果指標とする。	618	H29	680	R5
地域活動団体の年間イベント開催数	回/年	地域活動団体の年間イベント開催数	地域活動団体のイベント開催数を、東西自由通路及び駅西広場の整備によるにぎわい創出の成果指標とする。	0	H29	4	R5
地区内に立地する店舗数	件	地区内に立地する店舗数	地域の魅力向上及び住環境の整備により地区内に立地する店舗数を、地域が稼ぐ力及び持続可能なまちの成果指標とする。	7	H29	10	R5
避難するための時間	分	内水氾濫の発生から被害発生までの避難時間	雨水貯留施設を整備することで、確保することが出来る避難時間を成果指標とする。	0	R1	80	R5
防災訓練の回数	回/年	防災訓練の回数	地域住民の自主防災組織における訓練の回数を成果指標とする。	0	R1	2	R5

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 地域の資源を活用した交流の推進と魅力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須賀川駅の東西に分かれた地域活動及び駅東側の旧市街地と西側の新興市街地を有機的につなぐ、東西自由連絡通路を整備する。 ・駅に併設するコミュニティ施設のリノベーションを行い、誰もが利用しやすい魅力的なコミュニティスペースと情報を発信する観光交流センターを整備する。 ・国指定史跡「上人壇麁寺跡」を他にはない特色ある地域資源として位置づけ、新しい駅西地区の観光資源としてボランティアガイドの育成を図り、交流人口の増加を図る。 ・自治会行事及びまちづくり団体によるイベント開催において、ノウハウを有するまちづくり会社に委託し人材育成の支援を行う。 ・駅舎併設のコミュニティ施設内に整備する観光交流センター内に観光ボランティアガイドを常駐させ、観光資源の発信を支援する。また、同施設内に商業店舗スペースを配置し、運営を障がい者就労施設が行うことにより、労働の場を提供する。 	<p>●基幹事業 ①東西自由連絡通路の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ②観光交流センター・地域交流センターの整備(基幹事業/既存建造物活用事業)</p> <p>●提案事業 ①駅前SIMCITY事業 駅周辺の稼ぐ力の創出(まちづくり活動推進事業)</p> <p>●関連事業 ①駅橋上化整備事業(市単独) ②東西幹線道路の整備(社総金)</p>
<p>整備方針2 地域住民が生き生きと活動し、次世代に継承できる持続可能なまちの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民やまちづくり団体が、地域行事やまちづくりイベントを行う場として駅前広場を整備する。 ・次世代を担う高校生のまちづくりへの積極的な参画推進等を目的に、市と高校生、包括連携協定を結ぶ福島大学の学生とともに、次世代に継承できる持続可能なまちづくりの方策と市が保有する土地の利活用を検討する。 ・駅前広場に花壇を整備し、そのデザインから維持管理までを農業高校生が実施することで、花壇の維持管理費の削減を図るとともに、地域住民とも連携し世代間交流や生きがいを創出する。 	<p>●基幹事業 ①東西自由連絡通路の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ②駅前広場の整備(基幹事業/地域生活基盤施設)</p> <p>●提案事業 ①駅前SIMCITY事業 駅周辺の稼ぐ力の創出(まちづくり活動推進事業)</p>
<p>整備方針3 安全安心で快適に生活できる住環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅東側に集中する交通混雑の解消及び公共交通機関機能の正常化のほか、駅西地区への車両分散を目的に、東西自由連絡通路及び駅前広場を整備する。 ・駅利用者の利便性向上を図るため、利用しやすい駐車場を整備する。 ・本計画区域に居住する住民及び駅利用者が、安全安心に通行できることを目的として、道路新設(4路線)、拡幅(1路線)等のインフラ整備を行う。 ・地域住民や駅利用者が安らぎを求めて憩うことができる、街区公園を整備する。 ・地区の児童や生徒、高齢者等の交通弱者が安全安心に生活できる環境整備を目的に、地域住民が自分たちの住む道路や水路などの危険個所の安全点検を実施するための支援を行う。 ・浸水被害の軽減と避難時間を確保するため、既存の都市公園に雨水貯留施設を整備し、安全かつ迅速な避難誘導が行えるよう、避難路と高台避難地を整備する。 	<p>●基幹事業 ①東西自由連絡通路の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ②駅前広場の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ③西川中央公園の防災公園整備(基幹事業/公園)</p> <p>●提案事業 ①駅前SIMCITY事業 駅周辺の稼ぐ力の創出(まちづくり活動推進事業) ②防災意識向上のため、防災訓練の実施やパンフレットを作成する(まちづくり活動推進事業)</p>
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 事業終了後においても、将来ビジョンの達成に向け・長期の目標達成を目指し、都市再生整備計画事業の効果を最大限に高めるようなまちづくり活動を継続して展開して行く。なお、今後のまちづくり活動に結びつくまちづくり団体の設立を期待する。 防災公園整備後には、地域住民による自主防災組織により、定期的な防災訓練を実施する。</p>	

須賀川駅西 地区(福島県須賀川市)	面積	30.0 ha	区域	須賀川市 中山の一部外
-------------------	----	---------	----	-------------



目標	大目標:「人が集い、歴史と共存するにぎわいと魅力ある駅前空間の創出」 目標:地域の資源を活用した交流の推進と魅力の発信 目標:地域住民が生き生きと活動し、次世代に継承できる持続可能なまちの創造 目標:安全安心で快適に生活できる住環境の整備	代表的な指標	地区内人口の増加 (人)	618	(29年度)	→	680	(R5年度)
			地域活動団体のイベント数の増加 (回/年)	0	(29年度)	→	4	(R5年度)
			地区内店舗の増加 (件)	7	(29年度)	→	10	(R5年度)
			内水氾濫の発生から被害発生までの避難するための時間 (分)	0	(R1年度)	→	80	(R5年度)
			防災訓練の回数 (回/年)	0	(R1年度)	→	2	(R5年度)

